

## 進化を続ける深谷市 渋沢栄一の原点 新たな魅力を発見

埼玉県北西部に位置する深谷市が新たな魅力づくりに取り組んでいる。「道徳と経済とは、共に両立して進むべきものでございます」-こう語りかけるのは渋沢栄一アンドロイド。市内にある渋沢栄一記念館で渋沢栄一アンドロイドが身ぶり手ぶりで道徳経済合一説を解説している。渋沢栄一アンドロイドは2020年7月に設置した。70歳ごろの渋沢栄一を再現した。

近代日本経済の父といわれ深谷市に生まれた渋沢栄一。深谷市が渋沢栄一の原点だ。市内には渋沢栄一記念館をはじめ、旧渋沢邸の中の家(なかんち)など、渋沢栄一の足跡をたどることができる場が数多く残されている。

渋沢栄一は大河ドラマの放映や2024年の新1万円札の肖像などで注目が集まっている。2021年2月、市内に埼玉県内初となる大河ドラマ館が開設。大河ドラマ深谷物産館では「渋沢栄一翁夢七訓タオル」など300点を超す渋沢栄一関連商品を販売している。2021年2月に中の家にも80歳ごろの渋沢栄一アンドロイドを設置した。渋沢栄一ゆかりの場所を巡る循環バスの運行も始めた。深谷市の小島進市長は、「いままでも郷土の偉人として渋沢栄一翁の考えや功績を顕彰してきた。一過性のブームにならないようにこれからもしっかりと顕彰していきたい」と話す。

深谷市内の関越自動車道花園インターチェンジ(IC)の近くに花園IC拠点整備プロジェクトも進行中。2022年春に深谷テラスヤサイな仲間たちファーム(仮称)が開業するほか、深谷テラスパーク(仮称)が完成する予定。2022年秋にはふかや花園プレミアム・アウトレット(仮称)が開業予定だ。ファームでは野菜をおいしく食べる、触れる、見ることができる。アウトレットでは非日常の空間で買い物などを楽しめる。

赤レンガおよそ16万個を使った市庁舎。市庁舎近くの道路の一部もレンガ舗装に整備する予定。

進化を続ける深谷市。新たな魅力を再発見できるだろう。

埼玉新聞社 東京支社長 秋谷明宣



道徳経済合一説を解説する渋沢栄一アンドロイド  
(深谷市提供)



花園IC拠点整備プロジェクトイメージ図(深谷市提供)